

=主との交わり=

1. コイノニア。

交わり コイノニア fellowship *κοινωνία* : 共通の目的、課題を持ち、行動を共にすること、あるいは仲間。

客観的にクリスチャンは、既に主との交わりに入っているはず (1 コリ 1:9)。そして実際に、主との交わりを感じている人は幸い (2 コリ 13:13、ピリピ 3:10-11)

2. コイノニアは個人的なこと

主との交わりは個人的なことであり、指導者が主とどれだけ濃厚に交わっていても、その人本人の主との交わりには関係がない。

モーセ： 何十万人という民を率い、荒野で共に生活していたが、主と交わっていたのはモーセひとり。

イエスキリスト：多くの弟子や聴衆に囲まれるが、主と交わっていたのはキリストひとり。結局全員離散。弟子たちは一時期でさえ、一緒に目を覚ましていることはできなかった。 マタイ 26:36-41

人だのみの信仰は派閥を産み、組織を作り、結局宗教となる。1 コリント 1:12-13、ゼカリヤ 7:5-6

重要なことは、自立した信仰

3. 主イエスキリストを知ることによる、教会の発展。信仰の交わり。

エクレスシアの交わりに加わる条件 : まず血にあずかり、からだにあずかる。1 コリ 10:16

そして、光の中を歩み (1 ヨハネ 1:7)、信仰の交わりを行う (ピレモン 1:6)

それによって志が一つとなる。ピリピ 2:1-2

チェックポイント : 兄弟姉妹との交わりにキリストがおられ、感じることができるか?

1 ヨハネ 1:3 マタイ 18:20